

令和6年度第1回香川県国民健康保険運営協議会 会議録

1 日時 令和6年9月11日(水) 13:30~14:45

2 場所 香川県庁本館 12階 大会議室

3 委員の出席状況

[出席委員10名] 大森委員、梶原委員、木村委員、久米川委員、近藤委員、佐々木委員、高松委員、田中委員、豊嶋委員、松尾委員

[欠席委員1名] 小島昌一委員

4 事務局出席者

健康福祉部 長尾部長

医務国保課 高橋課長、福田室長、矢田室長補佐、大前室長補佐、多田副主幹、尾倉副主幹、岡本主任

5 傍聴者 なし

6 議事内容

各議題の審議等について

議題1 会長選出

事務局から、議題1(資料1)について説明の後、会長は引き続き松尾委員にお願いする旨を提案したところ、出席委員全員の下承が得られたため、松尾委員が会長に就任した。

議題2 香川県国民健康保険事業特別会計決算について

事務局から、議題2(資料2)について説明を行った。

【主な意見、質疑等】

(会長) 全体として、被保険者の数が減っている、1人当たり医療費は伸びている。財政としては剰余が出ているので、健全に運営されていると考えられる。

議題3 香川県内市町国保運営状況について

事務局から、議題3(資料3)について説明を行った。

【主な意見、質疑等】

(会長) 収納率、1人当たり医療費の全国順位について、これは県の管轄・責任ではないけれども、収納率の全国順位がかなり低いことについては、どのように分析しているか。

(事務局) 香川県内においては、比較的年齢構成の若い市町が収納率が低い傾向があ

る。おそらく、国保と被用者保険の間の切り換えが追いついていないことがひとつ考えられる。

また、他県と比べると、本県は口座振替の加入率が少し低い傾向がある。そのため、本県では今年度から、新規で口座振替をした方に抽選でプレゼントをするという「口座振替新規登録キャンペーン」を行っている。

さらに、本県は他県と比べて短期被保険者証の交付率が比較的高いということがある。滞納処分による差し押さえを行うというよりも、短期被保険者証を発行して対応しているということがある。

県としては、市町担当者を対象に、厚労省指定の収納率向上アドバイザーを呼んで研修を行うなどの取組みをし、収納率を上げていきたいと考えている。

(会 長) 職員も収納率を上げる為に努力している。各世帯を回ってお願いもしているようだが、なかなか納付できない家庭もあり、そこが難しい。

また、手間や費用の問題もある。(納付の)お願いに行くにも人件費がかかる。そのあたりの兼ね合いもあるが、全国的な順位も低めであるため努力せざるを得ないということになる。

1人当たり医療費の全国順位が高いのは、(被保険者が)比較的良好に医療機関を利用している、健康に気を使っているということ、悪いことではない。ただ、財政的には医療費が上がると保険料も上げなければならない。それぞれの方が健康のために努力されるということも必要だというきっかけにもなる。

(委 員) 先般、四国新聞に訪問看護で、医療型費用が10年で5倍になったことが報道されていた。在宅ケアが推進される中で、訪問看護を積極的に活用していることが関係するのかわからないが、1人当たりの医療費が令和元年と比べて(令和5年は)5万円も増えている。疾患の状況や、訪問看護が占める医療費の割合がどうなのか分かれれば教えていただきたい。

(事務局) 医療費の内訳については手元に資料が無いので分からないが、やはり1人当たり医療費が増えているというのは全国的な傾向であり、医療の高度化がよく言われているところである。

議題4 県における取組について

事務局から、議題4(資料4、資料5)について説明を行った。

【主な意見、質疑等】

(会 長) 初めてお聞きになる委員には、県の取組みの項目について、分かりづらいかもしれない。

例えば国保と被用者保険間の(資格の)移行の際にいろいろ問題が起こったり、保険料についても、所得に応じて平等に納めてもらうための努力とか、サービスについても基本のところは同じでも、各市町で少し違うことがあるなど、市町に

